

ESG（環境・社会・企業統治）投資家の間で、教育や医療など社会（S）の日常に欠かせない産業への関心が高まっている。脱炭素などで環境（E）を重視する企業にマネーが集まっていたが、ウクライナ侵攻などを機に潮目が変わりつつある。仏アクサ・インベストメント・マネージャーズで、利益だけでなく社会への貢献度を重視して投資先を選ぶファンドを運用するアン・トルムネン氏に戦術を聞いた。

ESG投資、社会貢献企業に関心

教育・医療情勢不安で注目



アクサ・インベストメント・マネージャーズ
アン・トルムネン氏

Anne Tolmunen 仏エッセック経済商科大学院大修士課程修了。ソシエテ・ジェネラルなどを経て、2007年にアクサ・インベストメント・マネージャーズ入社。09年9月から株式アナリスト、12年8月からグローバル株式チームで運用を担当。

「新型コロナウイルスやロシアによるウクライナ侵攻が背景にある。世界的にインフレ懸念も強まり、住宅や教育を手ごろな価格で提供することが重要になってきた。コロナでは公共の安全が大きな課題として浮上り、医療の技術革新や医療制度そのものにも目が向いた。米欧などで拡大する格差も長期的な課題となり、『誰一人取り残さない』

「運用するファンドは世界の株式のうち、中小型や新興国への投資が多い。米利上げなど金融緩和の縮小は運用にはマイナスに働いて、ウクライナの戦争の見通しも不透明で、まだ厳しい状況が続く。コロナで中

「もう一つは社会的なインパクトに関する重要業績評価指標（KPI）だ。マクロファイナンスであれば、融資を提供した人数や融資総額などだ。投資先には社会的な側面だけでなく、環境面での取り組みが不十分なら対話で改善を働きかけている」

（聞き手はESGエディタ
松本裕子）

「2つの方法を使っている。一つはスコアリング。企業がどれだけ社会に大きなインパクトを与えているかと、（アフォーダブル・ハウジングと呼ばれる低所得者向け住宅などのように）モノなどを割安な価格で提供しているかといった観点から点数をつける」

「投資先を選ぶ時、社会への貢献度をどう評価しますか。」

「運用するファンドは世界の株式のうち、中小型や新興国への投資が多い。米利上げなど金融緩和の縮小は運用にはマイナスに働いて、ウクライナの戦争の見通しも不透明で、まだ厳しい状況が続く。コロナで中

「過去10年は環境に良い影響を与える企業が注目され、多くの投資家は環境関連のファンドに資金を投じてきた。一方、社会的な貢献に着目したファンドには資金が向かっていかなかった。これからは社会への貢献度という観点でも選別されるようになる。教育や医療、住宅などに注目してい

「現在54銘柄に投資している。少額の事業資金を個人に低利で貸し出すマイクロファイナンスを展開するインドネシアの銀行や、糖尿病患者に対して血糖値を継続的に追跡できるサービ

「日本企業では子どもや高齢者向けのおむつを展開する企業と、中古住宅をリノベーションして手ごろな価格で提供する企業の2社に投資している」

「社会貢献度で企業を選別する手法でリターンを得られるのでしょうか。我々のファンドへの資金の